

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
<b>I. 理念に基づく運営</b>	<b>22</b>
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>	<b>10</b>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>	<b>17</b>
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>	<b>38</b>
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
<b>V. サービスの成果に関する項目</b>	<b>13</b>
<b>合計</b>	<b>100</b>

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	恵光園グループホームさくらの里
(ユニット名)	ハーモニー
所在地 (県・市町村名)	垂水市本城217
記入者名 (管理者)	原口敏夫
記入日	平成21年10月1日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑  取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
<input type="checkbox"/>	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者に最適な環境づくり(自宅のような環境づくり)1人ひとりある残存機能に着目し積極的にかかわる可能性への挑戦。外出の機会を持ち社会との接点の維持尊厳を大切にした自立支援を行う。	○	外に出かける機会を設けている。
<input type="checkbox"/>	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月スタッフ会の前に理念を唱え、全職員が共有し、できるだけ買い物などに連れ出し、地域の方々との出会いが出来る様にしてる。	○	スタッフ会時、話し合いの場を作って、それぞれの意見を出し合っ、理念の実践が出来る様努力しているし、又、実行できている。
<input type="checkbox"/>	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	3ヶ月に1度は園便りを作り、家族や主な関係者に郵送している。	○	
2. 地域との支えあい				
<input type="checkbox"/>	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	法人で行う主な行事、運動会、敬老祝賀会、夏祭り等には地域の方々に声かけ、参加してもらっている。	○	隣・近所に家がない為、気軽に声をかけあったりするのは難しいが、特養などの面会の方には散歩時など声をかけておられる。
<input type="checkbox"/>	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	夏祭りを特養と一緒にいき、案内の看板を立て、誰でも気軽に来てもらえる様にしている。	○	買い物、ドライブと出掛ける事で少しでも多く地域の方々と交流ができるようにしている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	介護の相談は今のところない。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回で4回目の外部評価を受けますが、受けることで運営者・管理者だけでなく職員の意識改革ができ、やらないといけないんだとの認識を持ち、一丸となり取り組めるのでいい。	○	サービスの見直しになり、常に緊張して改善に取り組んでいる。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回実施。家族からの意見や行政の方々の助言をスタッフ会で伝え、改善すべきことはすぐ取り組んでいる。	○	面会時など参加して頂ける様に声かけしている。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議に1～2名の担当者の参加があるのでいろいろ話している。又、地域密着型サービス事業者集団指導もあり指導を仰いでいる。	○	意見を参考にしている。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者、ケアマネ等は今までに研修で学んでいるので、必要な利用者様がいらっしゃる時は活用していくようにする。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に特養での施設内研修で学んでいる。自宅のことはわからない。	○	施設内研修で学んだ事を意識し、職員間でもお互いに気付いた事をスタッフ会等で話し合っている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時家族と話し合い、説明も十分にしている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情・相談受付窓口を目に付く場所に掲示してある。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時などに説明している。金銭管理についても面会時に確認、書名、捺印をもらい、遠方の方には郵送し確認してもらっている。	○ 遠方のご家族やなかなか面会に来られないご家族へは定期的に電話し、日頃の様子等、細かく報告行っている。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	不満、苦情、又その他意見がいつでも言える様貼紙もしている(窓口の)	○ 面会時等、ご家族に気軽に話して頂ける様に声かけ、お話している。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常に業務を一緒に行っている中でその都度、色んな意見を言ってくれるので、特に聞く機会を設けなくても反映できている。	○ スタッフ会時、話し合いの場があり、意見を出し、解決の話し合いも行っている。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	両ユニットの主任、副主任との話も常に行っていて状況の変化の時も相談し対応行っている。	○ 異動がある事は良い事だと思う。人員配置が必要な時はグループホームの勤務経験者を配置して下さるので安心して働ける。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	環境の変化と馴染みの関係が大切なので利用者様への影響が最小限ですむよう常に配慮している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>毎月1回法人内で施設内研修がありテーマを募集したり、又、法人で年間実施すべき項目については行われている。資格取得の為、(介護福祉士、ケアマネジャー)の勉強会も行われていて参加している。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>昨年より市内の同業者の連絡協議会が発足し研修会も実施している。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>働きやすいよう要望にはよく対応してもらい、周りの環境整備も整っていて気持ちよく仕事に取り組める体制が出来ている。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>積極的にいろんなことに取り組んだり、又、コツコツと努力していること。高い意欲とその能力を発揮して計画的・機敏に働く職員には高い評価を持って報いてあげている。</p>	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居を決定する為、見学をされるケースがたまにあり、その時は安心されるよう話を聞いているが、別に時間をとったりはしていない。</p>	<p>○ 見学者には職員が付き、いろいろと説明している。時間帯に関係なく。</p>
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>法人が老人福祉の総合的なサービスを提供しているので、相談も幅広く受けられるし、いろんなことを踏まえ対応出来る様になっている。</p>	<p>○ 相談しやすい雰囲気作りにも努めている。笑顔で傾聴している。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	望まれているサービスを優先に考え、相手先との調整を行っている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ご家族の思いを踏まえその方の状況、心身の状態をよく見極めスタッフとの検討を行い対応策を決めてご家族と利用者様が納得された時点でサービスを開始している。	○	在宅での今迄の事を聞く事により、その人らしさを前面に出せる様、プランに取り入れている。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	お世話しているという気持ちじゃなく、自分の家族だと思ひ、一緒に生活をしていき、分からない事は教えてもらひ、本人が出来ない事は手を添えてあげたりしている。	○	一日でも一時でも楽しく過ごして頂ける様、余暇活動などに取り組んでいる。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	本人に何か変化があれば即、家族へ報告、連絡、相談するようにしている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族の面会時、気付かれた事、職員が感じている事等、お互い話し合える様、その時間を設けている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブ、買い物時、行きたい所はないか、本人に聞き、リクエストに答え、馴染みのお店や場所に行き、昔を思い出して頂けるよう支援している。	○	本人の思いを大切にドライブや買い物・外出・行事等に取り組んでいるので、在宅時以上に活動的に動かれ、新しい風に吹かれ、生き生き楽しまれている。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	皆さん個性の強い方が多く、時には激しく言い合ったりする場面もある。職員が中に入り、落ち着いて頂き、穏やかになられ何事もなかった様に仲良く生活されている。	○	それぞれの個性を大切に考え対応したり、性格も見合わせ、その日の気分にも気配りし対応している。良くお話する事で理解されると思いやりも出て来て、利用者同士の関わりがスムーズにいつている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入居後より心身の状態を見ながら、最終的に家族がどのような生活スタイルを望まれるかを把握、退去後も家族の意向に添うよう支援している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限り本人の言いたい事、したい事を聞き支援している。意思疎通できない方は家族からの希望など聞き、検討している。	○	カンファレンス、モニタリング時に本人の思いは聞き、できるだけ望まれるように努力している。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活歴、環境、知人等色々な面から情報を集め、職員全員が把握出来る様努めている。	○	ドライブや外出行事等、リラックスされ楽しんでいる時を利用し、思いや馴染みの暮らし方等聴く様になっている。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日一人一人をよく観察し、少しでも変わった事があれば、個人ノート、連絡ノート等を書くようにしている。	○	個々に良く様子観察を行い、連絡帳や朝の引継ぎ等を利用し、全体を把握するようにしている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	課題があるとプランの見直しやカンファレンスをすぐに行い、職員間も連携をとり情報の共有化を図り介護計画に反映出来るように全スタッフで取り組んでいる。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	すぐに対応しプラン変更を行っている。対応が早い方であると思う。利用者の居心地の良い場所の提供を考えていると思う。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	少しでも変わったことがあれば、個人ノート、連絡ノートに記入してみんなで見るようにしているので、介護計画の見直しはすぐ行っている。	○	記録する事は大切だと思うので、反省や又、見直し時等、記録に残っていると確認が出来るので、しっかり記録するように努力している。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族、利用者様の要望が聞かれれば、ほぼ今までのノウハウを活かし対応している。	○	法人として34年の経験はGHにとっても力強く、いろんな面で楽しみや喜びを得る機会が多い。
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議で理解と協力を得てそれを運営に繁栄している。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要性があれば行って行きます。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	行っていない。今まで必要性が無かった。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は入居時に全員確認し、定期的に御家族、又は職員が送迎、付き添い、受診している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	家族の申し出があったり、又、職員の判断で受診の必要性を感じたら家族へ相談して受診ができるよう支援している。		
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	かかりつけ医の医師とは定期的な受診の際、いろいろと話をするが、看護職との話す事はない。	○	すぐに特養より看護職員がかけつけて下さり、緊急処置や受診の手配等の指導もして下さったり、日頃より交流もあり、利用者様の様子も知っていて下さるので安心。
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	家族より情報をもらったり入院先へ様子を定期的に見に行き担当者と話している。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化する前に家族はどのようなことを望まれているのか聞いている。又、希望される所へ案内し安心していただくようにしている。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度、終末期になるとどうしても医療とのかかわりあいが出てくる。これも家族の意向で積極的医療を望まれなければ、日々の生活を重視し本人が苦痛なく安楽に過ごしていただくよう支援している。病気にもよる。		
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	家族との話し合いはあたりまえのことだととらえているし、実施している。現実の場合、本人の認知の状況ではほとんどが家族の意見・意向が優先されている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	運営理念にもあるように尊厳をもって対応することが基本でもあることを職員も認識し個人情報もプライバシー保護も日常生活の中で認識している。	○ 他の利用者様に(わからないように)プライドを傷つけない様気配りをしている。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	常に利用者本位を心掛け、やりたいことはないのか、行きたいところはないのか等問いながら援助しています。身近にいる関係なので意思疎通が上手くいっている。又、出来る事などケアプランに取り入れている。	○ 表情に出たり、態度に出て来るので、日頃より様子観察を行い、不安や不満等に出来るだけ早く気付き対応している。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	年齢、それぞれ今まで生活してきた環境、仕事、好みを入居時に細かく聞き取りし、職員が共有し、その人らしい生活のあり方をさせていただくよう事ある毎に話し合っている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	理容・美容は月1回床屋さんが来園して下さるので、その時に散髪してもらっています。	○ 利用者様と一緒にコーディネートし、きちんとした身だしなみになるよう心掛けている。ただ、散髪を拒否される方もいる。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その日のメニューが1回で分かる様にしてあり利用者の方も楽しみにしておられる。	○ バランスの取れた食生活になる様、献立を工夫している。月1回、管理栄養士のコメントももらっている。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	今は酒、たばこを好む方はいないが、飲み物は買い物に行った際、買われる方もいる。	○ 本人の欲しい物や必要な物をご家族の許可も取り、買い物と一緒にしている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	今現在、高齢化が進み、オムツ使用が増えてきた。布パンツではカバーしきれない方が多い。	○	水分補給、食事量のチェック行い、排泄がスムーズでない方は、定期的にトイレ誘導行っている。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	火・木曜は女性が、土曜は男性と入居人数の割合で優先順位を決めトラブルもない。	○	「〇〇の湯」など温泉の素など使用し、楽しみながら入って頂きたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	本人が休息したい時はベッドに横になったり、ソファで居眠りをされたりしておられる。	○	午前・午後の園庭散歩 本人が休息したい時はソファで居眠りされている。
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一時帰宅者は今はいない(家族の希望)が4月までは1人いた。利用者・家族の希望があれば行っていた。	○	利用者は一時帰宅を希望されるが、家族が拒否された。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理出来る方は手持ちとし、出来ない方は事務所で預かり、買い物は定期的に連れ出し好みの物を買って頂いている。支払いも自分でされる方もいる。	○	金銭管理の出来ない方は預り金より買い物時は自分で支払うように支援。全く金銭管理が出来ない方は職員がお手伝いして一緒に支払っている。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ドライブ、買い物は定期的に、又、花見などにも季節によって出掛けている。	○	定期的に足湯に行き、桜島を眺め、ゆったりとすごされ、喜ばれている。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	季節に応じ花見やぶどう狩りなど遠出する事もあり家族に声をかけるが参加されない。ドライブで遠くまで出かける事もある。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	申し出があれば使用はできる。今現在、2名時々ではあるが使用されている。	○	家族等からのお電話等、必ず取り継いでいる。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	来客にはお茶など出して少しでも長く話しなど出来る様に心掛けている。	○	椅子、テーブルを用意し、お茶を出している。
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルがあり、いつでも見れる。又、特養での合同研修で取り上げたりもしている。	○	身体拘束はしていません。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	部屋の鍵はかけない	○	施錠はしていない。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	在園確認表を作って記入している。	○	今現在、活発な動きもなくなり、在園確認表は不要になっている。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	2～3名はハサミなど自分で保管・管理されている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	スタッフ会議、又は特養での合同研修で定期的に取り組んでいる。	○	事故報告書並びに事故原因検討表を作成している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	高齢者に多い疾患等研修会、スタッフ会で救急救命士や看護師より訓練や講義を受けている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	特養と合同での訓練実施、又、GH独自でも訓練や話し合いを行っている。地域の住民、民生委員等、施設でのイベントに招待し日頃から交流を行っている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	面会時などに説明している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調変化に気付いたら病院受診など行っている。又、家族にも連絡、報告している。最近では3～4日に一回SP測定し把握に努めている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が管理し自分で飲める方はその都度手渡し、自分で飲めない方には介助行っている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日散歩などし体を動かすようにしている。	○	排便チェック行っている。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	理解出来ない方には毎食後声かけ誘導して道具を手渡し見守りしている。完全に出来ない方には全介助で入れ歯洗浄している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取は毎日行ってチェック表に記入している。	○	水分摂取量の少ない方には、声かけを行い、なるべく飲んでいただけるようにしている。
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症予防マニュアルがあり、いつでも見れるようにしている。インフルエンザは職員全員、利用者様も家族の了解を得て全員予防接種をしている。	○	家族の同意を得て、インフルエンザ予防接種している。職員も行っている。
79 ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	ハイターなどでまな板など消毒している。賞味期限など注意している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80 ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	飾り物や鉢植えなどで明るい雰囲気作りに気をつけている。		
81 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	飾りつけやカレンダー(手作り)、時計など一目でわかる所に配してある。		
82 ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを2ヶ所配し、気のあった仲間とゆっくり話せる様にしてある。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	特に居室内は本人が好きな様、持ち込みなど自由である。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	各個室にエアコンを取り付け、本人にあった温度調整ができるようにしてある。	○	利用者様一人一人の状態を見て、細めに換気や温度調整を行っている。
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	いたるところに手摺りを取り付けてあり、安全に移動かつ利用者様が行動しやすい構造である。	○	トイレにもナースコールがあり、トイレトペーパーの不足等、教えて下さることもある。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	1人1人の能力に応じ、出来る範囲でいろいろな役割を持って活動している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベンチなど設置し、園庭で楽しく過ごせる様にしてある。	○	季節事に花を植えたり、小さな家庭菜園だけど、草取りや水まき等も行って楽しめる様にしてある。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		①ほぼ全ての家族と
		○	②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)